

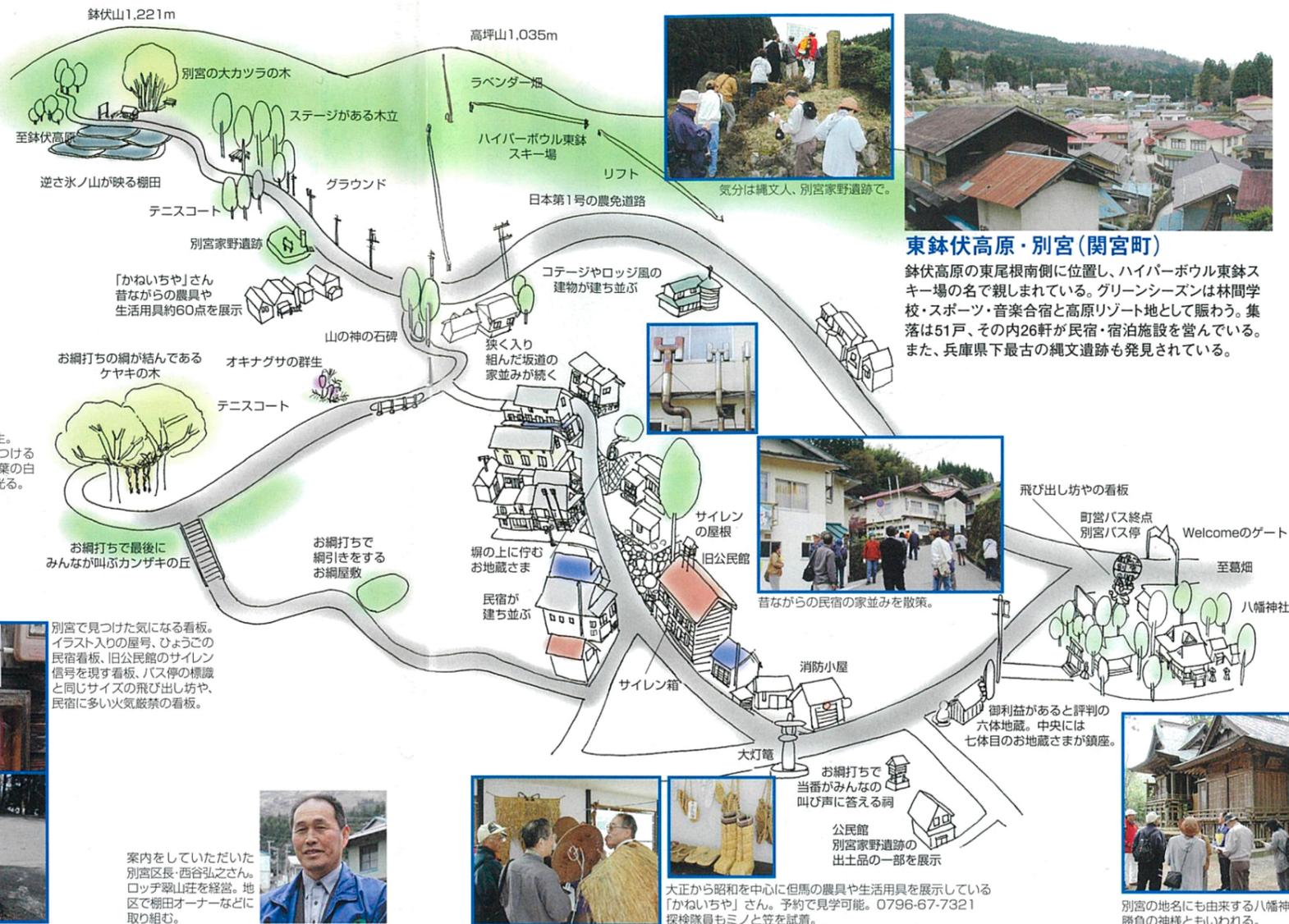
古代から人々が暮らし  
山の心を守り伝えてきた  
高原リゾートの村を歩く

# 裏路地探険

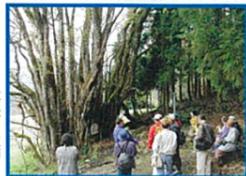
東鉢伏・高原の山里「別宮」／関宮町



**東鉢伏高原・別宮(関宮町)**  
鉢伏高原の東尾根南側に位置し、ハイパーポール東鉢スキー場の名で親しまれている。グリーンシーズンは林間学校・スポーツ・音楽合宿と高原リゾート地として賑わう。集落は51戸、その内26軒が民宿・宿泊施設を営んでいる。また、兵庫県下最古の縄文遺跡も発見されている。



大カツラの下で一休み。1本の幹から大小100近くの幹が生えている。左巻きでメスの木といわれ、根本からは清水が湧き出している。



大カツラの下で一休み。1本の幹から大小100近くの幹が生えている。左巻きでメスの木といわれ、根本からは清水が湧き出している。



オキナグサの群生。鐘のような花をつける高原植物。茎や葉の白い毛に朝つゆが光る。



別宮で見つけた気になる看板。イラスト入りの屋号、ひょうこの民宿看板、旧公民館のサイレン信号を現す看板、バス停の標識と同じサイズの飛び出し坊や、民宿に多い火気厳禁の看板。



案内をしていただいた別宮区長・西谷弘之さん。ロッジ翠山荘を経営。地区で棚田オーナーなどに取り組む。



大正から昭和を中心に但馬の農具や生活用具を展示している「かねいぢや」さん。予約で見学可能。0796-67-7321 探検隊員もミノと笠を試着。



別宮の地名にも由来する八幡神社にお参り。勝負の神様ともいわれる。

ふもとから鉢伏高原の東尾根の山道を登り、「Welcome Higashi Hachihuse」のアーケードをくぐると、山間の風景から、突如、民宿やロッジ・コテージが建ち並ぶ高原

リゾート村が出現する。氷ノ山・鉢伏山のふもとにいだかれた関宮町は、その地理と気候から6つのゲレンデを有する関西でも有数のスキー場・高原の町として知られている。その中であって、別宮「ハイパーポール東鉢スキー場」は、林立する宿泊施設に一番近いスキー場、早くからスノーボードを全面解放し、ポーターにも注目のゲレンデとして人気を集めている。昭和初期からスキー場として開かれ、集落の中ほど、狭く入り組んだ急な坂道の両脇には、昔ながらの民宿が建ち並ぶ。一見、普通の民家にも見えるが、大きな家の構えに屋号を掲げ、建物の横や屋根からはニョッキリと煙突が突き出す。看板が多いのも特徴、民宿を営む家は一時期より減ってきているが、看板のデザインや色合いに、永年にわたって多くのスキーヤーを我が家に受け入れてきた月日を感じさせる。

一方、ロッジやコテージが建ち並びリゾート村の景観を作りだしているのは、昭和44年、集落を迂回するように新設された、日本で第1号の農免道路沿いの一角。ガソリン税などの課税の見返りに、農

古代から人々が住んでいた山間の里ではあるが、田畑は限られた山の斜面に切り開かれている。火山灰の黒い土、集落から少し離れた大カツラのみもとには、幾層にも連なつた棚田がひろがる。大カツラから湧き出る清水で満面の水を湛え、田植えの頃には、谷向かいの頂に雪を残す氷ノ山が映しだされる。

現在、東鉢伏では「関宮deグリーンツーリズム」をテーマに、棚田オーナー制や自然体験、遊ぶ、名所・旧跡をたどるプログラムに取り組んでいる。季節はグリーンシーズンへ、テニスコート、グラウンド、自然をステーションにスポーツや音楽の合宿、林間学校の若者たちを受け入れる準備も万全、高原には若葉が芽吹き、ラベンダー畑からは甘い香りがただよいはじめている頃だ。

協力：関宮町・別宮のみなさん

### 裏路地探険隊員募集

8月25日(土) 城崎町探険  
文人たちが愛した城崎温泉の町を歩く  
\*実施日の10日前までに、18ページ掲載のT2編集部へ住所・氏名・年齢・電話番号・裏路地参加希望とお書きの上、ハガキでお申し込みください。開催は午前中、現地集合、現地解散となります。申込締切日後、案内をご参加希望の方へ送付致します。

業に役立つ助成として整備され、この道路の敷設によって、別宮の秘められた歴史が一つ明らかにされた。工事にあたって、約9000年前の縄文遺跡が発見されたのだ。標高692メートルの丘の上に営まれた住居跡で、土器片や石鏃、石斧など約3000〜4000点が

出土し、大昔から人が住み、草木の芽を摘み、木の実を集め、狩りをして暮らしていたと考えられている。兵庫県下最古の縄文遺跡で、県指定史跡となっている。別宮の歴史をたどると、地名は京都八幡市の石清水の分身を祀る別宮であることに由来し、かつては

熊次地区の総氏神であったといわれている。また、古くから伝わる伝統行事としては、1月9日の「お網打ち」がある。早朝から男たちが大綱を作り、村中が上と下地区に別れ綱を引く。勝負は豊作になるという上地区が勝ち、綱は村を一望する大きな2本のケヤキの木に結